



みんなの EBM と臨床研究

神田善伸 著

● B5・頁218 2016年10月

定価：本体 3,600 円＋税

[ISBN 978-4-524-25548-1] 南江堂刊

私が EBM (Evidence-Based Medicine) に最初に出合ったのは 20 年あまり前にアメリカで臨床研修を積んだときであった。診療現場においてエビデンスの生きた読み方・使い方を教わったが、エビデンスに振り回されるのではなく、「EBM は患者に始まり患者に帰着する」、「数値は臨床的枠組みのなかで初めて意味を持つ」ことをたたきこまれた。帰国してからは EBM の基本となるエビデンスの読み方・使い方や、臨床と統計の親密さを平易な切り口で解説してきている(註 1)。近年では日本でも EBM は着々と普及してきており、日本からのエビデンス発信も増えてきた。しかしその反面、日本の統計学教育は依然として貧乏であるため、エビデンスが商業主義や政治的戦略に濫用されてきているのも現実で、エビデンスに翻弄されるリスクも大きくなってきている。「はじめにエビデンスあり」と言わんばかりのネット情報や薬剤宣伝、さらには権威ある医師がその風潮を高めている現実には閉口する。

このような現実において、本来の EBM や臨床研究の本質を見直し、基本に立ち帰ることを促す点で本書は臨床的価値が高い。EBM の総論解説に始まり、臨床研究の実際、統計解析、論文作成という順で展開し、誰でもすぐに実用できるよう構成には教育的視点からの配慮がなされている。特記すべきことは、序文にも

あるように「EBM も臨床研究も、入り口は診療現場のクリニカルクエスション」であることが一貫して述べられていることである。「エビデンス商法」に騙されないよう、一見難解な非劣性試験や多重比較についての明快な解説項もあり、臨床の現場にいる医師にとって有用な解説が詰まっている。

本書の著者は臨床研究の第一人者でもいらっしゃる、統計処理の例示ではご自身で開発された非常に評価の高い統計ソフト「EZR」(註 2)の活用法をユーザーフレンドリーに説明されているため、統計処理に触れてみたいという初心者にもお勧めである。

医学統計に関する書籍は急増してきているが、本書のように臨床の重要性和統計の意義をバランス良く解説した書籍は少ない。EBM 初心者、臨床研究をしてみたい医師、密かに学んで教育に活かしたい指導者に本書を推薦したい。

註 1) 2 週間でマスターするエビデンスの読み方・使い方のキホン：すぐにできる EBM 実践法、能登洋著、南江堂、2013 年など

註 2) フリーでありながら評価の高い統計ソフトである「R」の操作性を飛躍的に向上させたフリーソフト。「EZR」で解析処理をした医療文献も急増してきている。